

育成すべき資質・能力の 三つの柱	大泉の自主・自律・創造	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
<b>知識・技能</b> 何を理解しているか 何ができるか	<b>興味関心をもち、 課題を発見する力</b>	家庭科において興味関心をもつことができない。	家庭科における限られたことには興味関心をもつことができる。	家庭科において広く興味関心をもち、課題を発見することができる。	家庭科における幅広い分野に興味関心をもち、意欲的に課題を発見することができる。	家庭科における幅広い分野に興味関心をもち、課題の本質を発見し続けることができる。
	<b>自分の可能性を信じ、 やり抜く力</b>	家庭科の作業における自分の可能性を信じることが出来ず、取り組むことができない。	家庭科の作業における自分の可能性を信じ、取り組むことができる。	家庭科の作業における自分の可能性を信じ、最後までやり抜くことができる。	家庭科の作業における自分の可能性を信じ、計画的にやり抜くことができる。	家庭科の作業におけるどんなときも自分の可能性を信じ、何事にも計画的にやり抜くことができる。
	<b>挑戦する力</b>	何事にも挑戦することができない。	家庭科の与えられた課題に対して、挑戦しようとするすることができる。	家庭科の与えられた課題に対して、前向きに挑戦することができる。	家庭科において自ら課題を発見し、挑戦することができる。	家庭科において自ら発見した複数の課題に対して、挑戦し続けることができる。
<b>思考力・判断力・表現力等</b> 理解していること・できることを どう使うか	<b>解決に向けて 論理的に思考する力</b>	家庭科の製作における課題の解決に向けて、自分で考えることができない。	家庭科の製作において自分で考えることができる。	家庭科の製作において筋道を立てて思考できる。	家庭科の製作における客観的根拠を示して筋道を立てて思考できる。	家庭科の制作において客観的根拠を示しつつ多角的な視点で筋道を立てて思考できる。
	<b>自他の違いを認め、 思いやる力</b>	家庭科における自分の考え方や生き方を認めることができない。	家庭科における自分の考え方や生き方を認めることができる。	家庭科において他者の考え方や生き方を認めることができる。	家庭科において自他の考え方や生き方を尊重することができる。	家庭科における多様な社会のあるべき姿について、考えることができる。
	<b>学びを実践に移す力</b>	家庭科において学びを他者に伝えることができない。	家庭科において学びを他者に伝えることができる。	家庭科において学びを他者に伝えて、理解してもらうことができる。	家庭科において学びを実生活や実社会で生かす方法を考えることができる。	家庭科において学びを生かして実生活や実社会に向けてアクションを起こすことができる。
<b>学びに向かう力・人間性等</b> どのように社会・世界と関わり、 よりよい人生を送るか	<b>自ら学びを継続する力</b>	家庭科において意欲的に学ぼうとすることができない。	家庭科において意欲的に学ぶことができる。	家庭科において意欲的に学び、その学びを継続することができる。	家庭科においてどのようなことに対しても意欲的に学び、その学びを継続することができる。	家庭科において自身の意欲的な学びを通して、集団に良い影響を与えることができる。
	<b>多様な人々と協働する力</b>	家庭科の作業において多様な人々と行動を共にすることができない。	家庭科の作業において多様な人々と行動を共にすることができる。	家庭科の作業において多様な人々と協力しながら、行動をともにすることができる。	家庭科の作業において多様な人々と協力しながら、課題解決をすることができる。	家庭科の作業における自己を含めた多様な人々の中心になって、課題解決をすることができる。
	<b>自己実現に向かう力</b>	家庭科において自分の作りたい姿を思い描くことができない。	家庭科において自分の作りたい姿を思い描くことができる。	家庭科において自分の作りたい姿を具体的に思い描くことができる。	家庭科において自分の作りたい姿に向けて、必要なことを理解することができる。	家庭科において自分の作りたい姿の実現に向けて、努力を重ねることができる。